

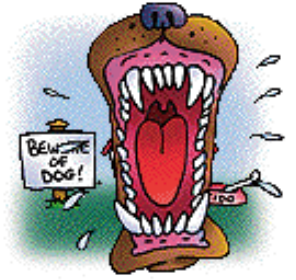
緊急警鐘！ 狂犬病ってどんな病気？

狂犬病の国内での発症が、36年ぶりに確認されました。

11月16日には、フィリピンから帰国した京都市内の60歳代の男性が死亡。

22日には、二人目の感染者が横浜で確認され、60歳代の男性が重体に陥っています。

狂犬病は、飼い犬に対する予防接種を義務づけられている病気で、毎年春には自治体より予防接種の案内がハガキで郵送されているので、犬の登録をされている方はご存じのことと思います。でも、実際にそれがどういう病気なのか、どのように感染するのか、今まであまり知る機会が無かったのではないのでしょうか。



狂犬病とは、狂犬病に感染した犬、猫、キツネ、ハムスター、などの小動物に噛まれることによって感染し、まず頭痛発熱といった風邪症状に似た症状が現れ、その後、意識障害や幻覚麻痺といった症状とともに、水を飲む際、咽喉頭に激しい痛みをともなった痙攣が起り、水を見ただけでも発作が出ることがあります。そのため、「恐水病」とも呼ばれており、一旦発症してしまった場合には、人も犬も**100%死亡**に至る恐ろしい病気です。

もし、狂犬病にかかった動物に噛まれた時には、まず、傷口を石鹸で洗浄しエタノールで消毒その後潜伏期間内3ヶ月にわたり6回のワクチン接種を行います。咬傷部位によっては**（頭部に近いほど危険！）**接種回数が増え、合わせて発症してしまうケースもあるようです。

日本国内でも、野犬の多かった時代には、狂犬病に感染する飼い犬が後を絶たず、毎年多くの死者が出ていました。1950年（昭和25年）狂犬病予防法によって飼い犬の登録とワクチン接種が義務化されたこと、行政による野犬の捕獲が徹底して行われたことなどが功を奏し、1956年（昭和31年）には、狂犬病を撲滅することが出来ました。しかし、世界レベルで見ただけの場合には、現在でもアジア諸国を中心に蔓延している国の方が多く毎年**5万人**もの死者が出ているのが現状です。

最近北海道では、次のような対策をとらざるを得ない状況が発生しています。北海道は、狂犬病予防対策として、2003年4月より、道内の港に入港するロシア船から上陸する犬（ロシア犬）の監視事業を国と共同で実施すると明らかにしました（ロシアでは1998年に7人が発病）道内12港の周辺では、ロシア犬とみられる犬が2003年2月までの3年間で116頭捕獲され**処分**されています。これらの犬は本来義務付けられている狂犬病の検疫を受けておらず以前から日本における人への感染の可能性を指摘されていました。

では、日本で狂犬病を蔓延させないためにはどうすればいいのでしょうか？この病気を蔓延させないためには、飼い犬全体の**80%のワクチン接種率**が必要とされていますが、現在の日本では、**50%に満たない**のではないかとされています。つまり、**一触即発！**一旦狂犬病ウィルスに侵入されたら大変な事態に陥る危険な状態と言わざるを得ません。

芦屋市内でも、「狂犬病なんてもう無いから」「うちの子はひとりで外に出さないから」「うちの子は人を噛まないから」とワクチン接種をしていない飼い主さんが、決して少なくないのが現状ですが、「噛まないから要らない」のではなく、狂犬病にかかった動物に噛まれて感染発症するのが狂犬病です。



狂犬病の予防接種は、法律で定められた**飼い主の義務**なのです。可愛い愛犬と人間の健康と命を守るために、どうぞ毎年の**ワクチン接種**をお忘れなく！

Pet sitter



MR.HELP

<http://www.ashiya-people.com/shops/mrhelp/>

皆様のペットライフを応援します♪

有限会社 ミスターヘルプ
0797-38-7538
芦屋市打出小槌町4-4

スタッフ募集中!

ナンナカフェ

nanna café



芦屋市西芦屋町3-22
芦屋タウンハウス 1F
TEL.0797-23-4887
営業時間/a.m 10:00~p.m 19:00 (L.O)
定休日/水曜日
<http://nannacafe.fc2web.com/>

屋内テラス席でワンちゃんと一緒にコーヒーをどうぞ★

